

「シリーズ・変わる！学校図書館②見てみよう！全国のおもしろ学校図書館」ミネルヴァ書房より

図書館をメディアルームに 東京都・東京学芸大学附属世田谷小学校

東京学芸大学附属世田谷小学校の図書館は「メディアルーム」と呼ばれています。「読書センター」としての役割はもちろん、調べ学習の本などさまざまな資料に対応する「学習・情報センター」にも力を入れています。「メディアルーム」では、毎週1回「メディアの時間」を設けてクラスごとに授業を行います。読み聞かせやブックトーク、おすすめの本の帯づくりをするなどの読書活動の他に、調べ学習の調べ方を学ぶこともあります。メディア（本や図鑑、事典、新聞など）とのつきあいかたを6年かけて学んでいきます。

書籍とタブレットで調べ学習 広島県・竹原市立東野小学校

東野小学校は、コンピューター教室と図書館を合体して新しい学習の場にできないかと考え、書籍を使って調べることを前提にしながら、タブレット端末も使って学習活動に取り組めるようにしました。読書スペースは、本だなの設置場所や書籍の配置、見せ方を工夫し、リラックスして本が読めるようにカーペットが敷かれています。調べ学習や授業で利用するときには、タブレット端末が用意されている机のある学習スペースを利用します。

「ブックワールド」という名の学校図書館 京都府・京都市立洛央小学校

洛央小学校は5つの小学校が統合されて平成4年に開校しました。図書館は、学校、地域の人たちみんなで何度も話し合い、その結果、みんなが安心して過ごすことができ、ただ静かに本を読むだけの場所から、対話やワークショップができる場所となりました。カーペットの形・色、固定家具、可動家具、プレゼンテーション設備、色彩とそれぞれにこだわりがあり、子どもたちの豊かな想像力がかぎりない物語・ドラマをつくりあげています。

本の帯を使った | 2月の展示・掲示

帯を使って
看板づくり!

図書館には、看板が必要な場所がたくさんあります。
帯は、さまざまな色の、さまざまな紙質の紙が使われています。その帯を使って看板を作ってみましょう。



「メリークリスマス！心があたたかくなる本！」「読んでみよう！冬の本」など
看板には子どもたちに呼びかける温かい
言葉を書きたいですね。

図書館入口に、ゆれる雪の結晶！



Hello! 学校図書館

今月は、南区にある長丘中学校の図書館を紹介します。
長丘中学校は、鴻巣山のふもとにあり、全校生徒数650人、20学級の学校です。
訪問した際は、放課後の部活動が始まった時間で、子どもたちの元気いっぱい、さわやかなあいさつで迎えられました。ちょうど、ブックトラムから購入本の選本中で、校長先生がそこに案内してくださいました。文化専門委員会の子たちの他に、本に興味のある多くの子どもたちも集まって来ていて、生き生きと本を選んでいました。また、先生方も来られ、本をはさんで子どもたちとの会話もはずみ、楽しい時間になっていました。

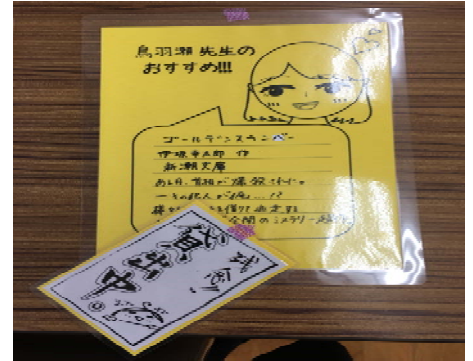
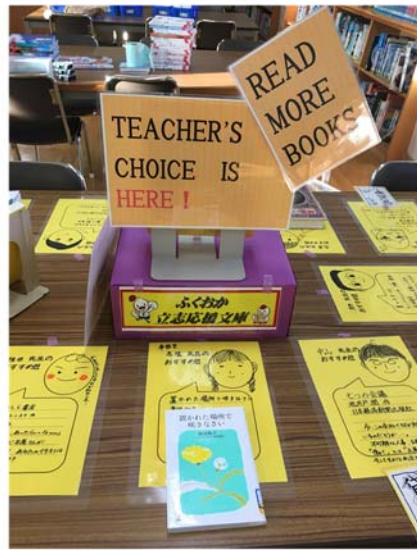


子どもたちが本を手に取りやすい展示の仕方の工夫



机上にべた置きにすることで、本の表紙が見えやすく、ページもめくりやすくなっています。また、「貸し出し中」のお知らせがあり、わかりやすいですね。

おすすめ本の紹介の工夫



「今月のおすすめの本」のコーナーは1階廊下の子どもたちの目に付きやすいところに設置されています。図書館には、先生方のおすすめの本が、先生方の似顔絵・コメントと共に紹介され、子どもたちが興味をもって読書ができる工夫がされています。

また、「文化委員激押し本集結！」のコーナーもあり、子どもたちが活動をしっかりとしているのがよくわかります。

図書館の本を各学級へ配布する工夫



おすすめの本を各クラスに配布しています。クラス名のあるコンテナが準備されていて、分かりやすいです。

12月生まれの文学者

角野 栄子 (かどの えいこ) と「魔女の宅急便」

1935年1月1日 東京生まれ

角野氏は、学生時代からデザインの仕事にあこがれ、本の装丁を手がけるブックデザイナーになろうと思っていました。1959年24歳の時にブラジルに移住し、2年間過ごしました。1970年35歳で、ブラジルでの生活を書いた作品、「ルイジニョ少年 ブラジルをたずねて」を出版し、作家デビューをしました。角野氏は、この作品を書き進めるにつれて書くことが楽しいことに気づき、以後多くの作品を書きました。

「魔女の宅急便」は、主人公である13歳のキキが、親元を離れ、知らない町で魔女として町の人に受け入れられ、一人立ちする姿を描いています。このキキのモデルは、当時12歳だった長女が書いた絵がもとになっています。また、宮崎駿監督によって1989年にアニメ映画化、2014年には、清水崇監督により実写映画化されました。

角野氏の作品は、「わたしのママはしずかさん」など、多数あります。



森見 登美彦 (もりみ とみひこ) と「聖なる怠け者の冒険」

1979年1月6日 奈良県生駒市生まれ

森見氏は、2003年、執筆した「太陽の塔」で第15回日本ファンタジーノベル大賞を受賞し、作家デビューしました。

「聖なる怠け者の冒険」は、朝日新聞の夕刊に連載された後、全面改稿されたものです。「聖なる怠け者の冒険」の連載では、物語の完結をどうするかを最初から決めていたわけでもなく、また、連載のストックは3週間分でしたので、いろいろな話を続けながら、物語の展開をしていきました。森見氏は、連載の途中から、「とにかく無事に終わらせること」が目標になってしまい、連載が終わってみると、小説として一本筋が通っていないように感じました。森見氏は、本として出版するとき、連載中の登場人物を削ったり復活させたり、話をばらばらにしたりするなど、何度も何度も書き直しました。そして、森見氏自身が納得した作品となりました。

森見氏の作品は、「有頂天家族」「四畳半神話大系」など、多数あります。

(あしがき)

令和2年もいよいよあと1週間となりました。今年は、新型コロナウイルス感染防止のため、多くの心配をされながらの図書館運営をされたことと思います。子どもたちも思うように読書が出来なかったこともあったことでしょう。先日、学校司書研修がありました。学校司書の方が学校と連携され、さまざまな工夫をされて子どもたちの読書活動を推進されていることに感心しました。まだまだ心配はつきませんが、来年は良いニュースが聞かれることを願っています。みなさん、どうぞ良いお年をお迎えください。

(足立)

図書館員のひみつの本棚 第176回

今月は冬にぴったりの物語です。

『雪の女王』

アンデルセン／作 木村 由利子／訳 朝比奈 かおる／絵 偕成社 2005年

¥1000(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年★★☆ 小中学年★★★ 小高学年★★★ 中学生★★★

高校★★★ 一般★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

悪魔が作った鏡の欠片が目と心に刺さってしまった男の子カイ。雪の女王はそんなカイを自分の国に連れ去ってしまいます。カイの仲良しの女の子ゲルダは、カイを追って世界の果てにある雪の女王の氷の城へと向かいます。170年以上読み継がれている名作。

<子どもに手渡す時のポイント>

アンデルセン童話といえば、「はだかの王さま」や「人魚姫」など誰もが一度は聞いたことがあるお話です。当初アンデルセンの童話集の題名には「子どものための」という言葉が入っていましたが、大人にも童話を読んでほしいと思った彼は、途中からこの言葉を題名からはずします。この「雪の女王」は「子どものための」と題名に書かれなくなった 2 冊目の童話集で発表されました。ぜひ幅広い年齢の子どもに手渡してみてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行：福岡市教育委員会 総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801